

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 効果検証

交付金概要

- 地方版総合戦略に基づく、自主的・主体的で先導的な事業を支援し、KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援。
- 地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保。

効果検証

- 産官学金労官などの地域の多様な主体（外部組織）の参画により、KPIの達成度について効果検証を行うことが必要とされているところ。
- 各年度ごとに目標値を設定し、実績値が目標値を上回っていれば「達成」とし、上回らない場合は「未達成」と定義する。

事業名称	計画期間
1 日本一輝けるスタートアップアイランド ～多様な人財が集まり、安心して暮らし・働き・チャレンジできる島づくり～	R4～R6
2 持続可能な観光の島を目指した「佐渡版MaaS」実証事業	R4～R6
3 「元気なしまびと」を起点とした「魅力あるしま」づくりプロジェクト	R4～R7
4 安心して暮らし続ける島×地域循環共生圏の創出 ～多様な連携による持続可能な仕組みづくり～	R5～R7

日本一輝けるスタートアップアイランド

～多様な人財が集まり、安心して暮らし・働き・チャレンジできる島づくり～

事業期間	R4～R6（3年計画終了）
R6事業費	45,309,000円
交付金額	22,654,500円

概要

- 【人材確保】島内企業全体のブランド力向上、選ばれる会社になるための仕掛けづくり
- 【人材育成】若手起業家等が活躍し、次世代の担い手が輝ける仕組みづくり
- 【移住促進】移住者・UIターン者の受入れ促進と定着化に向けた体制構築

総括

- ・求職者と事業者のマッチングシステムにより就業機会増加。人手不足解消に寄与。（登録者2,483名 事業所186社 採用件数4,143件）（地域産業振興課）
- ・佐渡総合高校で起業家・即戦力人材を育てる部活動を創設、IT企業と連携。（移住交流推進課）
- ・インターンシップに全国から7名参加、うち2名が島内企業から内々定。（地域産業振興課）
- ・UIターンインフォメーションセンターを通じた相談対応、情報提供体制の強化、首都圏等の移住促進イベント等を実施し、Uターンを促進。（移住交流推進課）
- ・空き家相談事例データベースシステムを活用し、空き家相談体制を整備。（移住交流推進課）

KPI

KPI	
UIターン定着率	UIターン者数
・事業開始前 0%（データなし） ・R6実績値 73.91% （R6目標値 80.00%）	・事業開始前 504人 ・R6実績値 445人 （R6目標値 580人）
インターンシップ受入企業数	
・事業開始前 10社 ・R6実績値 5社 （R6目標値 27社）	
ベンチャー企業の本社機能移転数	
・事業開始前 0社 ・R6実績値 0社（R6目標値 3社）	



3年間のKPI実績推移

KPI	R4	R5	R6
UIターン定着率（%）	83.51	74.05	73.91
UIターン者数（人）	600	572	445
インターンシップ受入企業数（社）	17	11	5
ベンチャー企業の本社機能移転数（社）	0	0	0

持続可能な観光地域づくりを目指した 「佐渡版MaaS」実証事業

事業期間	R4~R6（3年計画終了）
R6事業費	76,359,647円
交付金額	38,179,822円

概要

- 【観光地域づくり】交通ネットワークの実現による観光地域づくり、地域交通網の維持
- 【タクシーアプリ導入】MaaSによる新たなモビリティサービスの構築（観光客や住民の移動手段確保）

総括

- ・ さどまる倶楽部アプリ改修により、利便性向上（観光情報充実等）。
会員数増加、旅行満足度向上に寄与。（観光振興課）
- ・ CRMシステムで会員データを一元的に管理。顧客状況に合わせた情報配信によりエリア周遊を促進。（観光振興課）
- ・ きらりうむでファミリー層向けイベント、マルシェを開催。
佐渡金銀山音声ナビの継続、パンフレット等の更新による来訪者満足度向上、佐渡金銀山の理解促進。（世界遺産課）
- ・ タクシーWeb配車システムの導入によるタクシー共同配車を実現。
同システム活用による佐渡版ライドシェアを実施。（交通政策課）

KPI

KPI
1人当たりの旅行消費額
・ 事業開始前 39,535円
・ R6実績値 56,100円 （R6目標値 55,000円）
観光旅行者の満足度
・ 事業開始前 29.20%
・ R6実績値 41.30% （R6目標値 33.00%）
路線バス利用者
・ 事業開始前 35万人
・ R6実績値 40万人 （R6目標値 38万人）



3年間のKPI実績推移			
KPI	R4	R5	R6
1人当たりの旅行消費額（円）	46,322	51,494	56,100
観光旅行者の満足度（%）	35.9	34.0	41.3
路線バス利用者（万人）	36	38	40

「元気なしまびと」を起点とした 「魅力あるしま」づくりプロジェクト

事業期間	R4～R7 (3/4年目)
R6事業費	56,718,045円
交付金額	28,359,022円

概要

【健康寿命延伸】 【地域課題解決】 【交流・居場所づくり】

- 市民が生涯にわたって活躍できるまちを目指し、青少年からお年寄りまでの健康寿命、食育、運動にアプローチした事業を展開
- 都市部の人材との一体的な取り組みにより、地域づくりに資する人材＝「元気なしまびと」として、地域課題の解決に取り組む地域共生社会＝「魅力あるしま」を実現。

総括

括

- ・地域生活課題を包括的に受け止める**相談支援体制**（CSW・包括化推進員）を**社会福祉協議会と連携して構築**。**地域力向上、相談件数増加に寄与**。（社会福祉課）
- ・地域コミュニティの維持を図るため、**助け合い活動等に取り組む71集落を支援**。（地域産業振興課）
- ・BMI18.5未満の後期高齢者等に**管理栄養士が個別に栄養指導を実施し、栄養状態を改善**。（市民課）
- ・健康フェスティバル等を実施し、**健康寿命の意識醸成や減塩の啓発**。（健康医療対策課）
- ・スポーツ・レクリエーションの普及を進め、健康づくりを促進。（文化スポーツ課）

KPI

KPI

地域づくり活動に関わった人数

- ・事業開始前 4,442人
- ・**R6実績値 6,944人**（R6目標値 4,538人）

しまびと元気応援団参加数

- ・事業開始前 4,299人
- ・**R6実績値 6,824人**（R6目標値 6,519人）

健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数

- ・事業開始前 1,380人
- ・**R6実績値 2,229人**（R6目標値 1,620人）



3年間のKPI実績推移

KPI	R4	R5	R6
地域づくり活動に関わった人数（人）	6,743	7,111	6,944
しまびと元気応援団参加数（人）	8,141	10,350	6,824
健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数（人）	2,282	2,429	2,229

今後の方針

- ・地域コミュニティ交付金の**補助率と上限額を見直し、より多くの地域活動を支援**。
- ・健康づくり計画を見直し、**減塩を重点に各種事業を実施するほか、健康づくりの意識付けから健康寿命延伸に取り組む**。

安心して暮らし続ける島×地域循環共生圏の創出

～多様な連携による持続可能な仕組みづくり～

事業期間	R5～R7 (2/3年目)
R6事業費	6,953,527円
交付金額	3,476,763円

概要

- 【SDGs推進】SDGsの普及啓発に資する取組の展開
- 【脱炭素化】再エネ導入の普及促進／低炭素化、再エネの自立分散化・地産地消の促進
- 【学生拠点施設整備】島たびバイトの仕組み構築及び受入れ環境（ときわ館）の整備
- 【人づくり・地域づくり】佐渡市総合戦略アドバイザーによる佐渡未来講座の開催

総括

- ・市内外にSDGsをPR（SDGsパートナー向け認定盾等作成、SDGs未来都市「東京都豊島区」と文化交流、VLR公開）。（総合政策課、文化スポーツ課）
- ・EV公用車カーシェアリングを実施し、脱炭素を普及啓発。夏季観光シーズンのレンタカー不足解消に寄与。（総合政策課）
- ・島外大学生がオンシーズンに安価で滞在可能な拠点施設（寄宿舍）を整備。（総合政策課）
- ・佐渡総合戦略アドバイザーや外部専門機関を招聘し「佐渡未来講座」、「自然共生のみらい会議」を開催。島内外の企業同士の連携のきっかけやSDGs推進の好循環を形成。（総合政策課）

KPI

SDGsパートナー加入数

・事業開始前 52社 ・R6実績値 13社（R6目標値 20社）

市内総生産額

・事業開始前 170,300百万円（R1）
・R6実績値 161,252百万円（R4）（R6目標値 174,650百万円）

今後も佐渡に住み続けたいと思う人の割合

・事業開始前 78.40% ・R6実績値 58.30%（R6目標値 82.26%）

再生可能エネルギー設備等の導入件数

・事業開始前 0件 ・R6実績値 130件（R6目標値 53件）

2年間のKPI実績推移		
KPI	R5	R6
SDGsパートナー加入数（社）	48	13
市内総生産額（百万円）	158,074	161,252
今後も佐渡に住み続けたいと思う人の割合（%）	調査未実施	58.3
再生可能エネルギー設備等の導入件数（件）	105	130

今後の方針

- ・子どもやステークホルダーとSDGs普及啓発活動を進め、市民や事業者の資源循環等の行動変容を促す。
- ・大学生拠点施設の運営を開始。関係人口の創出や地域人材を確保し、市内総生産額増を目指す。